相談支援会議　平成３０年度の実施内容

■４月

1．自己紹介・施設紹介

　2．今年度の相談支援会議について

　・事例検討、研修を通して糸魚川市の障害福祉の現状や地域課題の把握に努めていく。

　・開催場所と事例提供は事業所で持ち回りで担当。

　・研修は年度内で2回行う。

　3．前年度の活動報告

4．今年度の研修内容について検討

■５月【エスポワールはやかわで開催】

　1．事業所見学

　2．事例検討（事例提供：エスポワールはやかわ）

　・脊髄小脳変性症による肢体不自由68歳女性。

　・入所施設利用。自殺未遂や他入所者への暴言・暴行・嫌がらせ、職員へのモラハラ・パワハラがある。

　・気性の荒いところがあるが、社交的な面もある。外出が好きだったが、他入所者の高齢化や重度化で機会が減っている。

　（話し合われた内容）

　・外部の資源を使って、話を聞いてもらう場や外出の機会を持てないかアイディアが出された。元々自立度が高かったができないことが多くなってきた本人の人生を受け止めながらも、施設の中で言わなくてはいけないことは伝えていく。等

■６月

　1．事例検討（事例提供：好望こまくさ）

　・発達障害のある20代男性。同じく発達障害のある母と二人暮らし。

　・一般就労しながらも空いた時間は就労Bを利用。

　・仕事は10年続いているがあまり戦力になっていない。サービス利用中も居眠りや頻回なトイレの影響で作業効率が悪い。

　・ゲーム依存な所があり、家でも合間合間にゲーム。昼休みもゲーム、土曜日は一日PC等でゲーム。

（話し合われた内容）

　・仕事場に作業説明を張るなど視覚でわかりやすくする。

　・本人の得意な作業や趣味の作品を展示する機会など、評価される機会を作ればゲーム以外にも目が行くのではないか。等

■７月【地域活動支援センター青空工房で開催】

　１．事例検討（事例提供：地域活動支援センター青空工房）

　・統合失調症50代男性。要介護5の母と高齢の父との3人暮らし。

　・母が父や本人に指示し動かしている。食事や入浴などの介護は父・本人で協力して行っている。本人も負担感を感じており、通所時に愚痴を言っている。

　・本人は就職をしたいと口にしているが、介護負担等を理由に実行へは移せていない。

（話し合われた内容）

・介護負担をはきだせるような相談体制を一般相談やケアマネとも連携して関わっていく。通所も気持ちを話せる場になっているため本人の大変さを受けとめる対応を継続。等

■８月【支援センターささゆりで開催】

１事例検討（事例提供：支援センターささゆり）

・知的障害（療育A）40代男性、自閉傾向あり。

・対人関係は苦手、言語遅滞、几帳面な性格。長期休暇後に連続して休むようになり現

在は通所を休んでいる。

・家からささゆりまでんも送迎を利用しているが、通所拒否の言葉も聞かれる。

・医療機関受診もできず認定調査も受けられない。計画相談担当相談員や市の訪問には拒否がない。

（話し合われた内容）

・他施設通所など他の選択肢や訪問型の支援があると関係性が崩れたときに良い。一般相談等複数で人間関係を築いていき、長い目で見てどうしていくか、母も交え検討。関係性をもてる人を増やしていく。

■９月【ふれあい会館研修室にて開催】

１事例検討（事例提供：地域活動支援センターあけぼの）

・広汎性発達障害、中程度知的障害の20代女性。療育手帳B、年金一級、区分5

・作業中椅子に座って過ごすことができない。常に動いているような状態で、外に出て車や人を見ていることもある。

・スーパーの袋やチラシ、リボンへのこだわりがあり、リュックに入れている。出そうとするとさらに要求する。

・ゴミ箱の中のゴミをもって帰ってしまうこともある。

（話し合われた内容）

・枠組みの作りかた。タイマーなどの活用。動く活動を入れて、やれたことへの評価。等

■１０月【研修】

講義「一人一人の特性を理解し、その人らしい生活を支えるために」

　　　　　　　～めひの野園の取り組みから～

講師　めひの自閉症地域生活支援センター　センター長　東　真盛　様

会場　こころのケアセンター１F　地域交流室

■１１月【研修】

「事例から学ぶ発達障害支援者研修会」

テーマ「関係機関との連携」

（上越地区「発達障害者支援部会事業」の研修と合同開催）

会場　糸魚川地域振興局　車庫棟会議室

■その他

○啓発・広報の活動について

・今年度も小学校への出前講座を3校で開催

9月25日　能生小学校

聴覚障害当事者からのお話し、手話体験

10月5日　青海小学校

視覚障害当事者からのお話し、質疑応答

11月7日　下早川小学校

聴覚障害当事者からのお話し、手話体験